

鑄造と切削, 研磨を実際に行なっている. Prof. Epps が一人で設計をしていたのに対し, Prof. Angel はいわばプロジェクトのリーダーで, 同じ Arizona 大学の構内にある国立 Kitt Peak 天文台や Optical Science Center と協力して作業を進めている. 紙面の都合でその内容を紹介することができないが, 鏡材の鑄造から切削, 研磨, 検査と光学技術の広い領域をカバーしており, その作業に天文学者達が実際に関与しているところが興味深い.

以上に筆者の主観にもとづく人物紹介を行なったが,

この種の話は象の尾にさわって象は棒みたいだといった盲人の話に非常に近い. しかし, 象の身体の一部の棒のようなものに触れただけで筆者自身は十分に楽しむことができた. do-it-yourself shop の繁昌とともに, プロの大工や職人の仕事が減ってきていると聞く. 以前は光学の「シロウト」であったはずのエレクトロニクスのエンジニアたちは, いまや光学の全分野で do it yourself をエンジョイしている. 大工や職人たちの話はどうやらひとごとではなさそうである. 日曜大工用具は今日も売られている. (1983年4月15日受理)

## 照明学会の活動

高橋 貞雄

(社)照明学会総務理事 〒100 東京都千代田区有楽町 1-7-1 有楽町電気ビル内

社団法人照明学会(会長:門田正三,東京電力(株)副社長)は大正5年(1916年)の創立で,わが国照明界の進歩発展をになってきた伝統ある学会である.その目的とするところは,照明ならびに熱その他一般放射に関する研究の連絡提携および普及促進を図り,もって學術の発達および技術の向上に寄与することである.(定款より)

現在,会員総数5,081名(58年3月末)で,目的達成のために調査研究,標準の立案,会誌および図書の発行・配布,講演会,討論会,研究会,講習会,見学会等の開催,技術者の養成ならびに指導,功績表彰などを行なっている.

とくに昨年は,創立65周年記念行事の一環として,国際的な学术交流の見地から,照明の世界的権威者Dr. A. M. Marsdenを招き,'82年照明学会ワールドシンポジウムを東京と大阪で開催し,近代社会における照明の諸問題を討議した.この詳細は照学誌58年4月号に掲載されているのでご関心のある方々は,参照していただきたい.また中国照明界との交流のために,社団法人日本照明委員会に協賛して57年10月訪中し,照明技術の知識交流や意見交換,見学など有意義な機会もあった.

また,照明界に特筆すべき貢献をしたと認められる研究,発明,技術開発および照明施設・照明効果を顕彰する「日本照明賞」が設定され,本年5月に第1回表彰式開催のはこびになっている.

このワールドシンポジウム(後に国際シンポジウムに改称)と日本照明賞の授与は,今後毎年行なう計画である.

照明学会の継続的な研究活動として,光源システム,放射の応用・関連計測および視覚と視環境に関する三つの委員会が組織されており,研究が行なわれている.

光源システム(委)(委員長:野口透,摂南大学教授)は,ランプ,照明器具,点灯装置ならびにこれらを統合した光源システムの改良,開発のための調査,研究を行なっており,各年度で主要な調査研究事項を定めて取り組んでいる.昨年度は低圧放電の発光現象,HID安定器システム,最近の照明器具の動向などをとりあげ,一部,電気学会と共催して公開研究会を開催した.公開研究会は広く関連分野との連携を保つ意味から開かれた会員制とりいれており,現在,会員数約90名である.

放射の応用・関連計測(委)(委員長:中川晴夫,埼玉大学教授)は,放射の人体・動植物および物体への照射により生じる作用効果,反応に関する計測と応用技術についての調査・研究を扱い,電気学会光応用・視覚技術(委)や赤外線技術研究会と連携をとりながら,昨年度は移動物体の光電計測,赤外放射,測光測色,赤外線応用について公開研究会を開催し,成果を上げつつある.

視覚と視環境(委)(委員長:池田光男,東京工業大学教授)は交通の視環境問題や国際的要望に対応して,比視感度 $V(\lambda)$ の見直し,とくに薄明視の比視感度をとりあげた.58年度は委員会を改組し,基礎から応用まで

比較的幅広い調査活動を進める計画である。

このほかの研究活動としては、必要と認められた研究分野や外部機関から受託した研究項目について、プロジェクトを組み弾力的に対応する体制を敷いている。プロジェクト研究の最近の成果として次のようなものがある。

○照明学会・技術指針 JIEG-001(1980)

照明設計の保守率と保守計画

○照明学会・技術指針 JIEG-002(1981)

照明合理化の指針

○照明学会・技術指針 JIEG-003(1983)

煙センサに関する諸問題と技術指針

○照明学会・技術指針 JIEG-004(1983)

事務所照明基準および解説

照明学会にはユニークな通信教育講座がある。これは照明の実務家の養成を目的とし、あわせて正しい照明知

識の普及をねらって、昭和55年度より「照明実務講座」として開設されている。毎年1,000名を超える受講者があり、修了者には学会長名の認定証により「照明コンサルタント」の称号を授与(有効期限5年間)している。テキストによる自宅研修(6月～翌年2月まで)と研修後の1日スクーリング(5月実施)を併用しており、現在、照明学会認定の照明コンサルタントは2,120名を数えるに至っている。手前みそになって恐縮であるが、テキスト(B5版)は全5巻からなり、その道の専門家がそれぞれ分担執筆し、照明技術全般について平易に解説している。照明の入門書としても格好である。ちなみに受講料は、18,000円である。お知り合いの方でご関心があればぜひ勧めていただきたいものである。

今後とも照明学会の活動に諸兄弟のご指導、ご支援を願う次第である。(1983年5月16日受理)